

### 特別レポート

## ADLよりピュアオーディオファンに向けた 初の本格ヘッドフォンがついに登場

フルテックのブランドADLより待望のヘッドフォンが誕生した。多くのブランドがひしめく同ジャンルにあえて参入してきたのは、同社が長年培ってきた技術と最高品位のケーブルやコネクタ類を備えているからこそ。音質はもちろん、高級感のある手触りやフィット感等で、リケーブルによるグレードアップも楽しめる。まさにピュアオーディオファンも納得できる仕上がりとなっている。初登場にしてこの完成度の高さ！ぜひとも試してみてください。

Text by 井上千岳

Chitake Inoue

Photo by 田代法生



Alpha Design Labs

**ADL-H118** Headphones ¥23,100

**SPEC** ●形式:密閉ダイナミック型 ●ドライバー:口径40mmネオジウムマグネット  
●感度(1kHz):98dB SPL/mW ●再生周波数帯域:20Hz~20kHz ●最大許容入力:200mW ●インピーダンス(1kHz):68Ω ●イヤード素材:ソフトレザー ●側圧:約4.5N ●コネクタ:非磁性ロジウムメッキ仕様のα(Alpha) mini-XLR ●コード:片出し3.0mストレート(脱着式) ●質量(ケーブル含まず):約245g ●付属品:3.5mm→6.3mm金メッキ交換プラグ、キャリングケース

### ハイエンド設計を追求しつつ 軽量でコンパクトな仕上がり

フルテックはプラグやコネクタなどのパーツ類で世界的な評価を集め、次いでケーブルや電源関連機器の開発も手がけるようになった。その過程で発展してきたのが、アルファ・プロセッシングと呼ぶ独自の物性処理である。

アルファ・プロセッシングは超低温処理と電磁界処理を組み合わせた総合的な物性処理で、ケーブルの線材やコネクタなどの部材を始め、数多くの場面で採用されてきた。いわばフルテックの象徴ともいえるテクノロジーである。

このアルファという名称を掲げて創設されたADL(アルファ・デザイン・ラボ)は、従来のフルテック・ラインアップとは多少異なった方向性を持った製品で形成されたブランドである。例えばケーブルでは、重量級のハイエンド・モデルとは違う軽快なハイC/Pタイプが主軸だし、ミニプラグ・ケーブルやUSBケーブルなどPCオーディオやヘッドフォン対応の製品が多い。さらにUSB DACやヘッドフォン・アンプなどもラインアップされ、専らストリーミング・オーディオを中心とした製品展開になっているのがわかる。

このような状況の中で、ヘッドフォンは大きなジャンルを形成している。従来のハイエンド・オーディオとは別にUSBやPCを中心に広がる世界の中で、周辺機器だけでなくヘッドホン本体もラインアップに加えてほしいという思いはおそらく同社としても強かったのに違いない。本機はフルテックとして初めての本格的なヘッド



ドフォンで、それがADLブランドで発売されることにも強い意義がある。

デザインはADLブランドに相応しく、軽量でコンパクトだ。ハイエンド・オーディオとしての設計が施されているのは確かだが、無闇にそれを強調しない必要最小限のサイズに収まっている。世の中に数多い大型重量級モデルとは、コンセプトから全く違うといつていい。

### 強力な磁気回路で駆動し 正確なレスポンスを維持

形式は密閉型だ。音漏れが少なく、外部の騒音も侵入しにくい。このための配慮として、イヤパッドが逆三角のような独特の形状に形成されている。耳がちよと包み込まれるような感触で、ほとんどそれ以上の隙間がない。このため耳のすぐそばだけで音が鳴っているというダイレクトな鳴り方が得られるのである。またレーザー素材を用いた材質もクッション性がよく、密着度の高い仕上がりとなって、いつそう一体感が高い。

ドライバーは口径40mmの特殊ポリマーフィルムでできている。ボイスコイルは銅メッキの特殊アルミ合金線。これをネオジム・マグネットによる強力磁気回路で駆動する。

さらにボイスコイルと振動板の間にリングが挿入されている。これは波動の干渉を避けるための装備で、大音量時でも共振や歪みを防いで正確なレスポンスを維持する役割を担う。

### 脱着式コードを採用し グレードアップが可能

コードは片出しの着脱式だ。プラグには非磁性ロジウムメッキ仕様のミニXLRを採用し

ている。着脱式であるため破損しても交換が可能だが、さらに別のケーブルに換えることもできる。これについては後で触れる。なお本体は折りたたみが可能で、バッグに入れての持ち運びにも便利である。

### ●H118の音質的魅力

#### 密度が高くて表情が濃い 反応の早さと正確さも特徴

密閉型にありがちな詰まった感触がなく、上下に伸びやかな音調が快い。普通は音がこもったり詰まったりするのを嫌ってオープンバック型にするものだが、エネルギー・ロスを考えるなら密閉型の方が有利である。しかもこのサイズで音をこもらせないようにするのは大変難しいはずだが、この点が見事にクリアされているのにちよと驚かされる。

高低両端での伸びがいため、音調はナチュラルで強調感がなく、またエネルギーにも富んでいる。ピアノのタッチは明瞭で芯があり、それが低音部でも緩むことはない。粒立ちがよく、弱音部でのデリケートなニュアンスや余韻が緻密だ。それだけ表現も深いものになる。

アカペラもハーモニーの響きが自然に広がり、声の肉質感にも不足がない。透明度の高い出方だが、スカスカで腰の抜けているものとはまるで違う。密度が高く、表情が濃い。

オーケストラはトウツティでの弾け方が鮮やかで、力感を十分に引き出している。大音量でも崩れることがなく、また頭が天井につかえたような息苦しさも感じない。混濁がないのである。当然解像度にも優れ、低音弦やティンパニーなどもくっきりと描き出されている。ジャズでもウッドベースの軽快な弾み方が生き生きと

しているが、反応の速さと正確さが現れたものといつてよさそうだ。

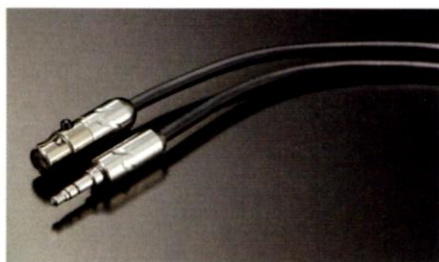
### ●リケーブルでグレードアップ

#### 目覚ましいほど音質が向上 情報量が増し、精度が上がる

さてADLブランドからは本機とともにヘッドフォン・ケーブルiHP-35シリーズも発表されている。これはヘッドフォンをさらにグレードアップするためのリケーブルで、プラグは3種類のタイプが用意されているが、本機にはミニXLR・IFタイプ「iHP-35X」が使用できるようにになっている。

芯線は二重構成で、中心に特殊構造の綿／銅箔線、その周囲を銀メッキI/OCCの極細線で囲んでいる。コネクタは全て非磁性特殊銅合金で、ロジウムメッキを施した仕上げ。H118本体側の入力プラグもロジウムメッキ仕様となっているため、音質的な相性もいはずである。

芯線は二重構成で、中心に特殊構造の綿／銅箔線、その周囲を銀メッキI/OCCの極細線で囲んでいる。コネクタは全て非磁性特殊銅合金で、ロジウムメッキを施した仕上げ。H118本体側の入力プラグもロジウムメッキ仕様となっているため、音質的な相性もいはずである。



H118のリケーブルに対応する「iHP-35X」(3.5mmステレオミニtoミニXLR-F)。価格は1.3m仕様が¥7,980、3m仕様が¥10,836となっている



写真左が「iHP-35」(3.5mm ステレオミニジャック仕様)、右が「iHP-35M」(3.5mm ステレオミニ to MMCX仕様)

さつそく本機の付属ケーブルと取り替えると、確かに音質の向上が目覚ましい。情報量が増すと同時に、その精度が上がる感触だ。高低両エンドでのエネルギーが高まり、ディテールの解像度が改善されてピントがより明確になる。どのソースでもさうだ。このケーブルも含めて、ADLの勢いは全開という印象である。

### Alpha Design Labs「iHP-35 Series」 オーディオグレード・ヘッドフォン・リケーブルのラインアップ

型番、プラグ形状	価格	長さ	対応機種
iHP-35 3.5mm ステレオミニジャック	¥7,980	1.3m	ULTRASONIC PRO Line シリーズ&PRO シリーズ SONY MDR-Z1000など
	¥10,836	3.0m	
iHP-35X 3.5mm ステレオミニ to ミニXLR-F	¥7,980	1.3m	AKG Studio シリーズ&StudioMKII シリーズ、K702、 Q701、K181DJ、PIONEER HDJ-2000など
	¥10,836	3.0m	
iHP-35M 3.5mm ステレオミニ to MMCX	¥9,975	1.3m	SHURE SE535SE、SE535、SE425、SE315、SE215SE、 SE215、ULTRASONIC IQ、edition8 Romeo&Juliaなど